（別紙4）　2019　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2375700693		
法人名	有限会社米澤福祉会		
事業所名	グループホーム「よつ葉」		
所在地	愛知県知多郡南知多町内海字南側２６－１		
自己評価作成日	令和6年2月	評価結果市町村受理日	令和6年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ（和）の会
所在地	愛知県名古屋市千種区小松町5町目2番5
訪問調査日	令和6年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

よつ葉が大切にしていること①日々の暮らしを大切にした支援。日常生活で行われる掃除、洗濯、調理等は自分たちで行い、他の利用者との協調性を大切にしている。「～に行きたい」「～したい」という声を生活に反映している。②入所前の生活の継続。入所後もこれまでと変わらない生活をしていただくために、これまでの生活習慣等を十分に把握し、実践している。③地域とのつながりを大切にした支援。毎日の買い物、地域高齢者サロンへの定期的な参加、ボランティアの受け入れなどを行い、施設と地域の関係性から「よつ葉で生活をしている〇〇さん」と「地域の〇〇さん」という関係づくりに力を入れ、利用者の皆さんが生活しやすい環境づくりをしている。また、近年高齢化、認知症の重度化が進んでおり、これまで個別支援を中心としていたが、集団支援も積極的に取り入れつつ、「皆さんで楽しむ時間・空間」の提供にも力を入れている。ターミナルに向けた取り組みも準備しているところである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は近隣の建物に溶け込んだ佇まいで、玄関先には季節の花が飾られ、1歩足を踏み込むと「おかえりなさい。」と声を掛けられそうな和やかな雰囲気がある。一人ひとりの個性を尊重し、日々楽しく今までの生活が少しでも継続できるようにと利用者にそっと寄り添い、お手伝い等を無理強いせず、個々の能力や特技が発揮できるよう支援することで笑顔に繋がっている。訪問時に職員や訪問者に気さくに話しかける利用者の様子からもごく当たり前の暮らしぶりが伺われる。職員は経験年数に拘わらず意見を取り込んで前向きにケアに取り組んでおり、風通しの良い環境である。新型コロナ感染症が5類に移行し生活様式の制限緩和に伴い、地域の祭礼や献灯祭、福祉フェアや文化展への参加、ボランティアの受け入れを再開し地域の方々との交流を図っている。地域密着型グループホームの果たすべき役割を十分理解しており、ニーズに沿った入居者本位のケアと職員の資質向上に取り組む事業所の今後の発展が期待される。

誤やかな

	項目	〇印	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		〇	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		〇	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		〇	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		〇	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	〇印	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		〇	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		〇	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		〇	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		〇	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームでの暮らしであっても、地域住民の一人として暮らせることを念頭に、月１回のミーティングにおいて、「その人らしい暮らし」を目指して実践している。	本人や家族から入居前の暮らしぶりや生活の様子を情報収集し、事業所内でも以前の生活が継続できるよう個別ケアに努めている。職員には月1回の会議の中で理念の内容を説明し理解を得ている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度の運営推進会議をはじめ、地域のサロンや定期的な買い物に利用者さんと一緒に出向くよう心がけている。移動販売を活用しているが、利用者さんだけでなく、地域の方の買い物の場所にもなればと考えている。	町内会に加入し、回覧板で地域情報を得ている。日常的に散歩や食材の買い物に出かけたり、地域の祭礼や公園の花見、文化展への出展等で地域の方々と交流している。野菜や海産物、食器を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南知多福祉敬老フェアへ利用者さんと参加したり、南知多町行方不明者捜索訓練へ参加した。また訪問診療の説明会を開催し、地域住民の参加があった。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は消防立会いによるによる火災訓練や避難訓練にも役場職員と民生委員に参加して頂き、実際の事業所のあり方を見て頂き、ご意見をいただいている。また、日常のイベントや家族が協力できることがあれば協力したいという話もいただいている。	年6回対面で開催し、避難訓練を組み入れたり協力医療機関の変更を伝えたりしている。役場の職員、民生委員、家族、利用者、社協等が参加し事業所の状況や日常の様子、行事報告や今後の予定を話している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や認知症協議体へ参加している。困りごとがあれば、連絡をし、アドバイスや意見交換を行うようにしている。	書類の提出時は担当者を訪問し、電話やメールで日常の相談や連絡をしており協力体制が構築されている。研修の案内が届き、業務に必要なものはオンラインで参加している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束について話し合う機会を設けている。ただ、話し合いをする中で、門の鍵をかけることが利用者さんやご家族にどれほど精神的な影響を与えるかまでが十分に話し合えていない。終日の門の施錠から、時間を制限した施錠に移行できるよう話し合いを行いたい。	日常業務での事例を取り上げて更に内容を深めながら身体拘束への理解へと繋げている。とっさの場合のスピーチロックに近い言葉遣いは都度注意喚起をしている。玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法律に基づいての勉強会までの開催はできていないが、言葉遣いや日頃の行為について職員同士でも意識し合う姿がある。又、ミーティングでも話し合う時間を設け意識しあっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	要望があれば研修の機会を持ったり、外部研修に行きたい職員がいれば、参加できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定があるたびに文章で通達している。契約時間は十分にとっている。質問があれば契約時や電話で受けつけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の活用や運営推進ん会議、また常に家族が訪問しやすい環境作りを行い、意見を言いやすい関係の構築に努めている。	現在事前に連絡を入れれば居室で面会でき、家族とメールやLINEが繋がっていれば様子を伝える写真も添えて情報交換している。家族からの要望で面会方法や時間制限の内容が検討され意見が反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアに関しては、毎月ミーティングを行なっている。そのほか面談の機会を昨年から年2回もうけている。個別に30分ほど意見を伺っている。また、全体ミーティングとは別に、規模を小さくしたミーティングを9月から開催し、より具体的な話し合いを行っている。	月1回のミーティングに加え、9月よりユニット毎のチームミーティングの実施で職員は日常ケアに関して意見交換している。年2回の個別面談で個々の思いややりがい等を聞いており、話しやすい場となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の処遇改善を、すべての職員に毎月の給与にて支払っている。また、給与に関しては基本的には勤続年数経験、資格で職員、パートの給与を確定している。賞与の面では十分とは言い切れないが、職員給与が上がるよう、増設等を行なっている。休み、有給は、職員、パート共に希望通り取ることができている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や初任者研修などが受けられるように一人一人に声をかけている。また、受講の際のサポートも微力ながら行なっているが、職員の向上心につながらない。学びの機会を持ち介護を違う面から楽しむ機会を持ちたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修や介護従事者を対象とした研修などを活用し、職員が他の施設の職員と交流が持てる時間を作っていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごとや不安な気持ちが、認知症に悪影響であることは職員は理解できているので、常に利用者さんの思いに耳を傾け、日頃から良い関係づくりに努めている職員は多い、		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	lineやメールを活用し、ご家族のご意見を伺っている。ご家族が足を足を運びやすい環境づくりをし、訪問の際は積極的に話を伺うように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、訪問診療、福祉用具レンタルや購入の情報提供、家族との話し合いを行っている。利用者の思いをくみ取り、家族へのおしつけや負担にならないように気をつけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的にはそのように努めている。食事づくりでは料理が得意な利用者さんが職員を手伝い、株の知識がある利用者さんは職員に株の知識を教えてる姿が見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者さんの困りご、楽しみごとを共有している。そのうえで、食事に連れ出して下さったり、不穏な状態が続く利用者さんのご家族は、定期的に訪問し、穏やかに過ごせるよう支援の協力をして下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍後、まだ十分ではないが、地元のサロンへの訪問や友人の方に面会に来てくださるよう声かけをしている。	知人や友人の訪問は事前確認をして受け入れている。家族との自宅訪問や外食、喫茶店、墓参りを支援している。個人的に年賀状をやりとりしたり、携帯電話で連絡を取っている方もある。近隣の団子屋さんは入所後馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にご飯やお茶が飲めるよう、席を替えたり、お世話したりされたりできる時間を作ったり工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者さん家族との交流、話をする機会がある。小さな地域なので、街で合えば立ち話をしたり、お茶を飲みに行く中になった例もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族に入所前の生活歴を具体的に伺い、入所後も本人に伺うよう努めている。また、職員間で共有している。	家族からの生活歴の聞き取りや本人から直接希望や思いを聴いている。意志疎通が難しい人には話しかけて、表情の変化や発語から本人本位に汲みとり、ミーティング時に伝えたり、書式に記入することで共有されて支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族に具体的に記入していただいている。又、入所する前に共有をしている。入所後も気になることがあれば、ご家族と連絡ウィとり、これまでのように暮らせるよう努めている。ただ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝の申送りで健康状態、最近の一日の過ごし方の把握をしている。ご本人がどのような生活を望んでいるか、今日をどう過ごしたいかも含め支援できるよう、職員がさらに意識できると良い		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人家族に意見を取り入れプランに反映している。ただ、ミーティングでプランを見直す機会を無くしてしまったので現状プランがどのようになっているかを知りたい職員がいるので、今後改善する必要あり。	モニタリングは3から6カ月毎に実施される。メールや面会時に家族からの意見要望等を聴き出し、その後ミーティング時に出される職員の意見や提案等とあわせて集約し、3から6ヶ月毎に作成され、何かあれば見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子、夜間の様子を朝の申し送りで漏れのないように報告しているが、申し送りの内容が途中で途切れてしまうこともあった。個人記録用紙の見直しと特別記録用紙の作成をした。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況によっては、訪問診療へ移行することを進めたりしている。また、その方が住む地域のサロンへの参加をするなどしてホームだけでない支援も行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サロン、町の行事への参加、ご本人がこれまでしてきた仕事の立場を考えて地域行事へ参加したりと工夫をしている。R6/3月には行くへ不明捜索活動に参加予定		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2024年１月から協力医が悠翔会に変更、訪問診療が可能となった。利用者はこれまでのかかりつけの方のいれば、先を見据えて訪問診療に切り替える方もおり、ご本人、ご家族の意思を尊重している。	協力医の変更後も個別契約で月2回訪問診療を受け、24時間対応である。入居前のかかりつけ医受診は家族の協力を得ている。訪問歯科は必要に応じ受けている人がいる。口腔ケアは職員に寄り行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問では、１週間の様子を申し送りにて状態をお伝えしている。また、アドバイスや助言などもいただいており、密な関係を気づけていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院がご自身に与える心因的影響は大きいと考えている。当事業所は医療の面でのケアには限界があるので、病院側と連携し、治療がリハビリだけになったら、医師の許可を早めにいただきたい旨をソーシャルワーカーにも伝えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でということはなかなかできていないが、食事量の低下等が見え始めると、ご家族に通院の方法を変える話、急変に備えての話を行なっている。	入居時に重度化終末期に向けて説明し、家族から看取りの同意は得られている。利用者の段階毎に家族と話し合い医療行為はホームで難しいと伝えている。訪問看護士と連携し、家族の要望が出されたら点滴は家族の立ち合いの下行われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問診療、訪問看護師に急変時の対応を伺っている。但し、職員の入れ替わりもあったので、今後定期的に訓練を行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年2回おこなて居る。消防立会いによる救命処置、火災避難訓練、運営推進会議のなかで、津波避難訓練も行なっている。	避難訓練は年に回実施され、一回は消防士立ち合いの下行い、初期消火、避難時のアドバイス、心肺蘇生の指導を受けている。二回目は津波避難訓練も行い、その際には役場職員、家族参加が得られている。備蓄品としてカセットコンロ、水、衛生用品、スープ、アルファー米等三日分用意されている	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのように努めている職員がいる一方で、自己評価を通して、自身を反省している職員もいる。職員全体的には、利用者さんを尊重してる姿勢で対応していると思う。	利用者に対して日頃から尊敬の気持ちを持って接し、一人ひとりの思いが優先出来るような対応に心掛けている。またミーティング時に管理者は接遇やプライバシーについて例をあげて話すことで共有されて支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員のの意見では、そのように勤めていると答えているものの方が多かった。管理者の立場として、それがより具体的で、日常的に実践できる環境づくりにつとめたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が決めなくてもご本人の意思で行動できる利用者さんが現は在多いので、一緒に考えている姿をよく見かける。又、利用者さんのできる事等を把握し、その人らしく活躍できる時間を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着させやすさだけでなく、ご本人の好みの色使い、季節にあった生地のものが選べるよう、衣替えをも一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくり等は基本的には利用者さんと行って居る。好みのものを伺い、それを一緒に作ることも取り入れている。	食材は配達と買い物で、献立は当日職員が決めている。調理、盛り付け、食器洗い等出来る利用者には手伝って貰えている。カップケーキ、パウンドケーキ、等の手作りおやつ、誕生日のケーキ、雛祭りのちらし寿司、クリスマスのスイーツなどの行事食を大切にし、一緒に楽しく作られている。利用者にあわせ刻み食も提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量の記録が必要な人は個別に取っている。また、食事の形態も必要に応じて変えている。口から食べることを大切にし、状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の歯科医師等の指示のもと、口腔ケアの重要性は理解しており、職員も意識している。医師と相談し、勉強会が開催されるとより向上心が持てると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のチェックは必要に応じて行っている。排便は、その日の状態に影響を及ぼすことも多いので、周期を極力把握し体調管理に努めている。排泄も自力でできるよう、自尊心を傷つけない支援を心がけている。	利用者のパターンを把握し、排泄チェック表を確認しながらトイレ誘導の支援を行っている。自立の人の見守り、パッド交換の人にはさり気なく声掛けて確認している。夜間は見守り、ポータ、オムツの使用等其々利用者に合わせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る前に食事や運動を通してできることを考えるようにしている。季節の変わり目には水分量のの多少を調節し、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に利用者の希望に沿って、入浴ができるよう、曜日も時間帯も決めていない。入浴支援は、職員によってしっかりやる者とそうでない者に分かれているようにうかがえる。入浴がもたらす効果など、基本的なことを学習して行く必要がある。	入浴は利用者の希望に合わせ毎日や隔日等で午後に入浴を楽しんで貰っている。拒否の人には時間の変更、職員の交代、声掛け等の工夫に寄り上手に入浴に導いている。シャンプー、石鹸は共有だが、持ち込み可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠が十分に取れるように、日中の活動ようを増やしたり、また、医師と相談して、不必要な薬を減らすようにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の職員が十分に把握しているとは言い難い。又、処方箋の管理が十分でなかった為、薬の内容がわかりやすく、薬もセットしやすい形を模索中		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所の際に、家族へお聞き取り調査を行い、それを日常で支援できるよう心がけている。必要に応じて、自宅から材料となる物を持ってきていただくなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そのように努めている。季節によって外出が難しい時もあるが、職員は「戸外」を意識している方だと思う。帰宅願望、ご利用者が発言した地域に耳を傾け、実際に出向くなど支援を行なっている。ただ、利用者の偏りがあるのが課題。	散歩の回数は少ないが、職員と共に食材の買い出し、団子屋、薬局、花屋等に出掛けたり、又家族の協力の下自宅、墓参り、外食、冠婚葬祭に出掛ける人もいる。気候の良い日は庭先でコーヒータイムを楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまでも地域に出向き利用者本人が、お金を支払うことを支援して来た。レジの人、レジを待つ人も温かく見守ってくださる人が増え、小さなことだが社会にも影響を与えていると思っている。たくさんの職員に伝え続けたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できるようになっている。また、ご家族側からも気軽に連絡を頂き、利用者さんと話をされることもある。年賀状もご家族に書く利用者さんがいる。LINEビデオ通話も活用している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の大きな声、テレビの音量など気をつける点はまだまだある。狭い空間なりに利用者の居心地を考え工夫し、花を飾ったり、作品を飾ってりして居る。	リビングは天井が高く開放的である。換気や掃除は職員が行い、手伝える利用者には掃除を手伝って貰っている。利用者と職員で季節毎に作品を製作し、掲示することで季節感を感じて貰えている。利用者に合わせ寛げるようにテーブル席を決めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのように支援してている。基本的には、利用者の行動に任せ、ご本人で決められない場合は、利用者にとって過ごしやすい場所作りとしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	近年、ご家族の持ち込み家具が簡素なものになっている。馴染みのものの持ち込みがどのような影響を与えるかを個別に行い、居心地の良い環境づくりに努めている。	居室の照明は優しく温かみがあり、落ち着ける雰囲気である。設置の棚には馴染みの服が置かれたり、家族写真、生花を飾ったり、椅子を置いたり、入口に暖簾を掛けたり、作品を飾る等其々過ごしやすい空間造りがされている。換気、衣替えは職員が行い、不足品が有れば家族に連絡を入れている。掃除は手伝える人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	標識・手すりを活用し自分で判断したり、行動できるように工夫はしている。また、利用者さんによっては居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立につなげている。		